日刊 動労千葉

85. 9. 5

No. 2031

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

青年部定期委員会成功

中曽根打倒の決戦ストライキの先頭にたつぞ

新藤・新青年部長を先頭に「分割・民営化」阻止の決戦ストライキ勝利の陣形を確立

ついに起つときがきたぞ！「分割・民営化」―国鉄労働運動解体攻撃は断じて許さない

動労千葉青年部は、八月三一日、九月一日の両日にわたり、長柄町自然休養村センターにおいて代議員・傍聴者六二名を結集し、第八回定期委員会を成功裡にかちとった。〝全人民の未来をかけて、国鉄分割・民営化、大量解雇―国鉄労働運動解体攻撃をうち破れ！　どのような攻撃にも屈せぬ不屈の団結うち固め、激突を恐れず、国鉄階級決戦に起ち上がろう！　この闘いと、開始された三里塚二期決戦を結合し、人民の実力で戦争への道を突き進む極右中曽根内閣を打倒しよう！〟のメインスローガンのもと、「日々が首切り粉砕闘争だ」を合言葉にむこう一年間、断じてたじろぐことなく突き進む決意を青年部は固めた。

国鉄―三里塚に勝利し
中曽根を打倒しよう
―田中青年部長―

委員会は、司会の内田常任委員の力強いシュプレヒコールで始まり、議長団に、勝浦支部の井上君、新小岩支部の大竹君が選出され、議事に入った。

まず、あいさつに立った田中青年部長は、「デマとペテンでぬり固められ、労働者人民にすべて犠牲をしいる『7・26監理委答申』を徹底弾劾し、『分割・民営化』＝十五万人首切り攻撃は、頭を低くして通りすぎることなど絶対にできない。行きつく先は戦争だ。大ストライキを準備し、また、それと結合し、いよいよ本格的攻防に突入した三里塚に勝利し、中曽根を打倒しよう」と訴えた。

次に、来賓でかけつけてくださった三里塚反対同盟・秋葉義光さんは、「9・16闘争はまったくの正義だ。自らの退路を断って二〇年の一切をかけて闘う」と断固としたアピールを発し、9・16―10・20の総力決起を訴えた。また、千葉県指紋押捺拒否予定者会議の季　宗雄（イ　ジョンウン）氏の活動報告をうけた。

委員会は、さらに、常任委員会からの総括提起を受け、午前の議事を終了した。

午後に入り、本部を代表して布施書記長、また、議事をはさみ、中野委員長から、それぞれあいさつを受けた。布施書記長は、「十五万人首切り攻撃にどう闘うのか、それが、青年部定期委員会の課題だ。勝利のポイントは青年部にかかっている」とあいさつ。また、中野委員長は、「国鉄赤字」を徹底的に暴露し、「これからが本当の闘いだ。勝利するキッカケはいくらでもある。当局・革マル連合を粉砕し、火の玉となって闘う体制をつくりあげなければならない」と訴えた。

さらに、議事は進行し、質疑応答に入り、職場問題、永鳥・行川君の強制配転問題、岩瀬さんへの不当処分問題、名札・ワッペン闘争など、生き生きとした報告、悩み、問題等、活発な論議がかわされた。

新藤●新青年部長にバトンタッチ

二日目に入り、予算案・方針提起が行われ、途中、東京実行委員会を代表して前杉並区議の長谷川英憲氏がかけつけて、東京都議選報告と三里塚―国鉄決戦に向けた決意をうけ、討論に入り各支部の力強い決意が語られた。

討論を受け、田中青年部長、布施本部書記長から総括答弁を受け方針案を満場一致で採択した。

さらに、新役員選出が行われ、六年間、青年部の最先頭で闘いぬいた田中青年部長から新藤青年部長へとバトンタッチされたのをはじめ、新たな体制で向こう一年間、全力で闘うことが確認され、組合歌合唱、団結ガンバロー三唱で、大成功のうちに閉会していった。

〈一九八五年度動労千葉青年部新役員体制〉

役職	氏名	年令	職名	支部
青年部長	新藤雄一	二八	運修	幕張
副青年部長	繁沢敬一	二九	電運士	千葉転
書記長	杉本則夫	二七	運修	津田沼
常任委員	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
会計監査員	〃	〃	〃	〃

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！